



「日々の生活、毎日の習慣が根となり、その人の性格になる」と教示する東城百合子さんⒺ

## 自然に添い健康づくり 講演で食の大切さ教示

町出身の自然食・自然療法研究者、東城百合子さんの講演会（葛巻からたちの会主催）は9月4日、総合センターで開かれ、約90人が「食生活の大切さ」を学びました。

東城さんは、大正14年生まれの80歳。栄養学を修め「あなたと健康社」主幹として、現在も全国各地で食生活を通じた健康運動を続けられています。玄米を主とした菜食と自然療法で自らの病気を克服した経験から、命の尊さや自然に添った生き方、食が子どもの心を育てることも伝えました。

講演会では、ビワの葉を使ったお灸やスギナ湿布など家庭で出来る自然療法も紹介され、東城さんは「葛巻は自然の宝庫。身近にある薬草に目を向けてほしい」と呼び掛けました。

## 新エネルギーの取り組み 先進事例で町をアピール

東北経済産業局と新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）主催の新エネルギー合同施設研修会は9月15、16の両日、ふれあい宿舎グリーンテージなどで開かれました。

研修会では、東北大学大学院の齋藤武雄教授が「新エネルギー利用技術の新たな展開」と題して基調講演をしました。

また、本町や住田町、山形県庄内町の職員が新エネルギーに関する取り組みを紹介しました。本町では、環境エネルギー政策課職員が「エネルギー自給のまちづくり」と題し、風力発電や畜産バイオガスシステムなど新エネルギーの活用状況や子どもたちの省エネルギー活動などについて発表。16日は、町内の新エネルギー施設を見学しました。



全国各地の自治体関係者約100人が参加した研修会



田楽もちの作り方を教わりながら、会話ははずむ参加者

## 食を通じて、温もり体験 垂柳地区でスローツアー

森と風のがっこう（吉成信夫代表）と山形村や久慈市の地域づくり団体の共同企画・北いわてのスローツアー第3弾が9月17日から2日間、垂柳地区で開かれました。

ツアーに参加したのは東京の大学生ら7人。初日は、垂柳のお母さんたちと一緒にへっちょこ団子や田楽もちなど葛巻の伝統食を作りました。同地区は梅や大豆の共同栽培、味噌づくりなど郷土食の伝承に力を入れています。参加者は、ほかに安孫自然塾での林業体験、さき織りにも挑戦しました。

交流会では、出稼ぎが多かった時代、主人の留守を守る地区のお母さんたちが共に支え合い、培ったきずなの強さに触れ、参加者は感激していました。